

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2371001674		
法人名	株式会社フレンズホーム		
事業所名	グループホーム フレンズハウス中島新町 ユニット1		
所在地	愛知県名古屋市中川区中島新町一丁目502番地		
自己評価作成日	令和6年9月24日	評価結果市町村受理日	令和7年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001674-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和6年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日を明るく楽しく、自宅で暮らしているように過ごしていただけるよう工夫している。居室内は利用者様が自由に暮らせる空間であるため、馴染みの物や家具を好きなように置いていただき、落ち着いた空間で過ごせるように配慮している。利用者様との信頼関係を築くことに気を配り、打ち解けて生活する中で、残された能力を発揮できるように支援していきたいと職員皆が同じ考えで方向性を一つに持って支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が長期化したことで、地域の方との交流が困難な状況が続いているが、当ホームの特徴として、法人代表者が地域の役職者でもあることで、地域の方との交流の機会にもつながっている。法人代表者からの働きかけ等を通じて、非常災害時における地域の方との連携にもつながっている。定期的に行われている運営推進会議についても、法人代表者や関連事業所の管理者が参加していることもあり、会議を通じた定期的な情報交換等の機会にもつながっている。感染症問題の影響で家族との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、入居前からの方との交流を継続する等、馴染みの方との交流が途切れないような支援が行われている。また、運営法人で様々な介護サービスの提供が行われている利点も活かしながら、利用者の身体状態等にも合わせた移行支援も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念はリビングなどの目につきやすいところに掲示している。ミーティングの時に理念を共有し、実践に繋がるよう努力している	基本理念を職員による支援の基本に考えながら、ホーム内への掲示を行っている他にも、職員会議等を通じて共有する機会もつづけている。また、職員で目標をつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	外に出かける機会が減り、地域の行事などにも参加できていないため、地域の方と関わる機会も減っている	感染症問題が長期化したこともあり、地域の方との交流が困難な状況となっている。法人代表者が地域の役職者でもあることで、地域の方との交流の機会をつくる取り組みが行われており、ホームの運営にもつながっている。	地域の行事に参加したり、地域のボランティアの方の受け入れ等、様々な活動が中断していることもあるため、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設に見学に来られた方に、認知症の人の暮らしを見てもらい、説明するなどし理解していただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の現状や取り組み、活動状況を報告し意見交換を行なっている。地域の役員の方にも参加していただき、地域の出来事などを報告してもらっている	会議については、対面方式での実施を継続しており、様々なテーマでの意見交換が行われている。法人代表者が地域の役職者でもあることで、地域の方としての意見と介護事業者としての意見と、両面から意見等を出してもらう機会がつけられている。	会議の出席者が限られた範囲の方となっていることもあるため、家族への参加の呼びかけ等、ホームの継続的な取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護受給者を受け入れており、区の担当者とは定期的に情報交換を行ない、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、主に運営法人の事務局で行われていることが多い。ホームでも生活保護の方の受け入れが行われていることもあるため、随時の連携が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について学ぶ機会を設け、身体拘束にあたる行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関の施錠も行っていない	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者も出入り口を開けることができることで、職員間で連携した利用者の見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修の機会もつけられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待が身体的な虐待だけでなく、心理的な虐待も含まれる事を理解し、虐待行為が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている		

1 / 8

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度について十分に理解できていないのが現状である。研修などを利用して学ぶ機会を設けていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に家族様やご本人に希望や不安に思っている事を伺うようにしており、施設で行なえる範囲のケア方法を説明し納得したうえで契約を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られた際などに意見や要望を聞くように努めている。また、玄関に意見箱を設置し活用していただいている	家族との交流についても制限の緩和が行われており、交流の機会にもつながっている。利用者や家族からの要望等については、管理者の他にも運営法人の事務局で対応する体制もつくられている。また、毎月のホーム便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	普段から意見があれば聞ける態勢は常に持っている。月に1度の職員会議でも意見や提案を聞く機会を設け反映させている	毎月の職員会議やリーダー等を通じた職員間で意見交換が行われており、管理者及び運営法人を通じて、職員からの意見等を運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談も行われており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者と話をする機会はなかなか持てていないが、事務局長を通じて職場環境や条件を考慮するようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会があれば参加し知識の向上に繋がるよう努めている。研修参加後には報告書を作成し、皆が閲覧出来るよう保管し共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現状は同業者と交流する機会を設けることが出来ていない。管理者は姉妹法人の運営推進会議に参加し意見交換をする機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前から情報収集を行ない、ご本人にも要望や希望などを伺うようにし、少しでも不安を取り除けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前の面談や入所してから面会時などに要望や不安に思っている事を伺うようにしている。可能な限りケアプランにも要望を取り入れ支援に繋げるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前の施設や病院などから情報収集を行ない、ご家族からも様子を伺っている。必要に応じ福祉用具なども検討し、導入する際にはご家族に説明し同意を得ている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事をしたりテレビを観たり、話をしたりして支え合える関係を築けるよう心掛けている。お互いが協力し合えるような暮らしが送れるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に日頃の生活の様子や近況報告を行い、必要に応じ相談もしている。ご家族の要望も可能な限り取り入れ、共に本人を支えていく関係を築くよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今までの関係を大切にし、馴染みの人との関係も可能な限り途切れないよう希望があれば連絡を取り合っている	利用者の中には、入居前からの関係の方との交流を継続しており、家族等の協力も得ながら、外出の機会にもつながっている。また、家族との外出も行われており、身内の方の法事等に出かける等、馴染みの方との交流の機会にもつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が会話をしている時間を大切にし、関係を見守っている。レクリエーションを通じて会話のきっかけが作れるように配慮している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後でも相談があれば出来る限り支援できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言動や表情などに気を配り、日々観察している。出来るだけ本人の思いに添うように努めているが、出来ないこともあるためそういった時は理解してもらえるよう説明している	現状、職員全員で利用者に関する意向等の把握が行われており、申し送り等を通じて情報の共有が行われている。また、定期的なカンファレンスを実施し、利用者や家族の意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前より情報収集を行ない把握するよう努めている。ご本人にも尋ね、知り得た情報は職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルチェックや申し送りで変わった事があればその都度情報を共有するようにしている。その時その時の状態を把握し状況にあったケアが出来るよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の暮らしの中で問題点が出て来たら、その都度話し合い、必要に応じて介護計画に取り入れている	介護計画については、3か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも支援内容に関するチェック記録を残し変化等を把握し、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に食事量や水分量、1日の様子などを記録している。何か特別なことがあればその都度話し合い、大事なことはミーティングで話し合い決めて統一した支援を心掛けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様やご家族のニーズに対応し、新たな問題は重視し柔軟なサービスの在り方に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	以前は地域のボランティアの方にお越し、フラダンスや落語の慰問に来ていただいたが、感染症対策のため現在は行っていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回協力医療機関の主治医の往診を受けている。ご家族の希望する病院があれば受診していただいている	協力医による定期的及び随時の医療面での連携が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。受診については家族による対応を基本にホームから情報提供等が行われている。また、協力医療機関の看護師との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月に2回協力医療機関の看護師の訪問看護を受けている。生活の中での変化や傷の手当など気になったことは相談し助言していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し情報を伝えている。定期的に看護師に状況を聞くなどし、状況の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化してきた場合は施設での可能な支援を説明し、ご家族の意向も踏まえて方針を検討している	身体状態の重い方も生活を継続することができるよう支援が行われているが、現状は、医療機関や関連事業所等、次の生活場所への移行が行われている。運営法人で様々な介護サービスを提供しており、運営法人全体で利用者の支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルを作成しており職員は把握に努めている。応急手当や初期対応の訓練は行えていないため、緊急時の対応に不安がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地震や火災、津波を想定した訓練は年に2回行なっている。地域の方との合同の訓練は行なえていないため協力関係が築けていない	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。水害を想定した訓練も実施している。法人代表者を通じて、地域の方との交流も行われている。また、備蓄品の他にも発電機の設置も行われている。	地域の方との交流については、感染症問題が長期化したこともあり、困難な状況でもある。今後の状況をみながら、非常災害時を含めた交流が再開されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応や言葉かけを心掛けている	基本理念の中に「明るく、楽しく、元気よく」という言葉が掲げられており、職員による利用者への対応の基本姿勢にもつながっている。利用者の合わせた対応を行うように管理者からの注意喚起等も行われている。また、接遇に関する研修に機会もつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を聞くようにし、表現の難しい方には選択肢を掲示するなどし、本人の希望に耳を傾け自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人一人のペースを大切にしている。一日の流れを考慮し、希望があれば対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った衣類の選択が出来るように見守り、衣類のほころびやボタンが取れていないかなど確認し注意している。外出する際は本人の気に入った服装や装飾品などを身に着けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様のADLが低下しているため食事作りは参加していないが、片付けや準備などの手伝いをしている。職員も同じテーブルで食事をしており、見守りをしながら会話を楽しんでいる	基本メニューから調理が行われているが、利用者の好みや嗜好等への配慮も行われている。おやつ作りや季節等にも合わせた食事の提供も行い、利用者の楽しみにつなげている。また、食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量は個別記録に記録し、不足していないか確認しながら必要に応じて声掛けするなどし支援している。必要に応じて食事形態を工夫して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に声掛け誘導し口腔ケアを行なっている。出来ない方には必要に応じ介助している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の有無を記録し、個々の排泄パターンの把握に努め、必要に応じて声掛け誘導している。可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している	利用者の排泄記録を残し、日常的な申し送り等を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に声かけを行い、排泄状態の維持、改善につなげている。また、排泄の関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的にバナナなどの果物や乳酸菌飲料などを食事の際に提供している。水分摂取を促し運動も行うようにしている。便秘が続くようであれば下剤を使用し調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯は決まってしまうが、順番はその人その人に合った順番を考慮しており、利用者様のペースに合わせた入浴をいただいている	利用者が週3回の午後の時間を基本に入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけを行う等、定期的な入浴につなげている。浴室にリフトの設置が行われており、身体状態に合わせた支援にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その人その人の状態を見て必要に応じて休んでいただくよう声掛けしている。寝具は常に清潔に保ち、空調の希望を伺い、快適に休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の薬情をファイルに綴じ職員全員が目的や副作用について把握できるように努めている。薬の変更があった際は状態の変化に気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	余暇時間にレクリエーションを行ったり、天候次第で散歩に出掛けて気分転換を図っている。手芸や工作の得意な方は作品を制作し飾っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策のため必要最低限の外出しかしていただけていない。行きたいところがある方はご家族に協力していただき出掛けしている	利用者の外出に関する制限の緩和が行われており、徐々に利用者の外出の機会をつくる取り組みが行われている。ホームの近隣への散歩を行ったり、季節等に合わせた外出を行う等、徐々に外出の機会を増やす取り組みが行われている。	利用者の外出の機会が限られた状況が続いていることもあるため、今後の状況をみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設に預けてもらっているが、希望される方で本人が所持している方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持している方もおり、希望があれば施設の電話をお貸しして電話をかけられるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下やリビングに飾り物や季節のカレンダーを掲示し、入居者様に合わせた配置を考慮している。窓からの明かりでリビングは明るくなっており清潔に保つよう気を付けている	ホーム内は限られた広さとなっているが、リビングにソファの配置を行う等、利用者に日中に時間をゆったりと過ごしてもらおう生活環境がつくられている。また、季節等に合わせた飾り付けや写真の掲示を行う等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にソファを配置しており、思い思いに過ごせるようにしている。席の配置も利用者様同士の関係を考慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の寝具は本人の使い慣れた物や好みの物を持参して頂き、居心地よく過ごせるように工夫している	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせながら、使い慣れた家具類や好みの化粧品等の持ち込みが行われている。様々な事情で持ち込みがない方もホームで家具類を用意し、シンプルな居室にならないような配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室やトイレには張り紙や目印をつけわかりやすくなるよう配慮している。利用者様の妨げにならないような物の配置を考え工夫している		